

研究集会「極域における過去の気候・環境変動」

日時：2014年3月5日13:30(水)～3月6日15:15(木)

場所：北海道大学 低温科学研究所 研究棟新館 3F 講堂 (N302)

主催：低温科学研究所 共催：北極環境研究コンソーシアム(JCAR)

3月5日

	発表者	所属	講演タイトル
13:30 - 13:35	関幸	北海道大学・低温科学研究所	趣旨説明
13:35 - 14:00	原田尚美	海洋研究開発機構	北極海海水減少 一生態系と物質循環へのインパクト
14:00 - 14:25	山本正伸	北海道大学・地球環境科学研究所	過去 9,000 年間の西部北極海の海流変動の復元
14:25 - 14:50	鈴木健太	北海道大学・大学院環境科学院	過去 76,000 年間の西部北極海海流変動
14:50 - 15:15	今野進	九州大学・理学研究院	北極チュクチ海における珪藻化石を用いた珪藻古環境復元
15:15 - 15:40	高橋孝三	北星学園大学	北極海域での新砕氷船の必要性と北極研究の現状
15分休憩			
15:55 - 16:20	関幸	北海道大学・低温科学研究所	北半球のアイスコアから復元した過去数百年間の有機エアロゾル濃度の変動
16:20 - 16:45	Ambarich Pokhrel	北海道大学・大学院環境科学院	Climate signals recorded in dicarboxylic acids, ketocarboxylic acids and α -dicarbonyls from the Kamchatka-Peninsula ice core (1500-1996): Implications for climate change
16:45 - 17:10	対馬あかね	北海道大学・大学院環境科学院	アラスカ・オーロラピークアイスコアから復元した近年のアラスカの気候変動
17:10 - 17:35	Cong Zhiyuan	Institute of Tibetan Plateau Research, Chinese Academy of Science	Historical Trends of Atmospheric Black Carbon on Tibetan Plateau As Reconstructed from a 150-Year Lake Sediment Record
夜			懇親会

3月6日

9:30 - 9:55	飯塚芳徳	北海道大学・低温科学研究所	NGRIP 氷床コアを用いた過去 300 年間の不揮発性微粒子の化学組成
9:55 - 10:20	小端拓郎	国立極地研究所	過去、現在、未来における太陽活動のグリーンランド気温への影響
10:20 - 10:45	東久美子	国立極地研究所	グリーンランド NEEM 氷床コアにおける過去 13 万年のイオン濃度変動
15分休憩			
11:00 - 11:25	シェリフ 多田野サム	東京大学・大気海洋研究所	氷期に氷床が大気大循環変化を通して大西洋子午面循環に与える影響
11:25 - 11:50	阿部彩子	東京大学・大気海洋研究所	北極域の氷床分布形成：LGM vs PGM
11:50 - 12:15	河村公隆	北海道大学・低温科学研究所	南極アイスコア(H15)中の低分子ジカルボン酸、ケトカルボン酸、脂肪酸の深度分布と大気環境の変化：地球温暖化の影響
昼食			
13:30 - 13:55	沢田健	北海道大学・理学研究院	南極スカルプスネス、スカーレン露岩地域に分布する湖沼の堆積物のバイオマーカー分析による古環境変動の復元
13:55 - 14:20	川村賢二	国立極地研究所	南極ドームふじ氷床コアと北半球海底コアの年代同期について
14:20 - 14:45	本山秀明	国立極地研究所	南極氷床の堆積環境
14:45 - 15:15			総合討論、お知らせ等